

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2008. 2. 29

第3号



亀井遺跡第2次調査 2区全景（東から）

最近の調査から

亀井遺跡第2・3次発掘調査（河辺町）

亀井遺跡は、安濃川の支流である美濃屋川右岸の微高地に営まれた遺跡です。

亀井遺跡では、昭和47年に三重県教育委員会によって県営圃場整備事業に伴う発掘調査（第1次調査）が行われており、弥生時代中期後半の遺跡であることがわかっています。

今回、市では、市道広明町・河辺町線改良事業に伴い第2・3次発掘調査を実施しました。

第2次調査 平成19年1～3月に、標高約10mの水田部分（1区；900㎡）と、標高約11mの畑地部分（2区；300㎡）で調査を行ったところ、1区からは、東西方向にのびる15世紀後半～16世紀前半の溝が1条、時期不明の土坑が1基、自然流水路が検出されました。

また、2区からは、弥生時代の土坑17基、L字状に屈曲する溝が検出され、これらの遺構からは、弥生時代中期中葉～後半の壺、甕、鉢、高杯、石斧や石包丁などが出土しました。

このほか、調査区の北側で東西方向にのびる中世期の溝が2条検出され、そのうちの1条からは、13世紀前半の陶器碗と土師器皿がほぼ完形で出土しました。

第3次調査 平成19年6月～8月に、2区の南側530㎡の発掘調査を行ったところ、2区で検出されたL字状に曲がった弥生時代中期後半の溝の続きが見つかったほか、微高地の南裾を西から東へと流れる弥生時代の自然流水



遺跡位置図(国土地理院『津西部』1:25,000より)



第2次調査(2区) L字状に曲がった弥生時代中期後半の溝(北東から)

路、中世期の溝などが検出されました。

また、この調査区からは、遺構に伴うものではありませんが、5世紀前半～6世紀代の須恵器が数点出土しました。

第2・3次調査区は、後世の耕作の影響を受けていましたが、弥生時代及び中世の遺構・遺物が良好な状態で検出され、整理箱にして450箱近い大量の土器や石器が出土しました。

しかし、弥生時代の土坑や溝は多く検出されたものの、住居跡が全く検出されなかったことから、調査区は遺跡の縁辺部にあたり、遺跡の中心は調査区の西側、現在の亀井集落のあたりにあるものと考えられます。

亀井遺跡から500mほど東の丘陵には、200棟近い住居跡が見つかった^{なが}長遺跡、また、安濃川左岸の水田地帯には、県下有数の拠点集落である^{のうそ}納所遺跡など、数多くの弥生時代の遺跡が分布しています。今後、調査成果の整理・研究が進むにつれ、今回見つかった遺構の性格や周辺遺跡との関係なども、次第に明らかになってくることでしょう。(藤田充子)



第2次調査(2区) 弥生時代中期中葉の土坑 (南から)



第2次調査(2区) 弥生時代中期後半の土坑 (東から)



第2次調査(2区) 13世紀前半の溝 (東から)



第3次調査 L字状の溝の続き (北から)

中蔦遺跡第4次発掘調査（大里窪田町）

中蔦遺跡は、志登茂川右岸の標高約13mの段丘上に位置する遺跡です。

市立大里小学校校舎改築工事に伴い、昨年度の第3次調査に引き続き、平成19年8月～9月に旧校舎部分740㎡の発掘調査を実施しました。

当初、鉄筋校舎撤去後の調査となるため、遺跡の保存状態が懸念されましたが、予想したよりも遺構が良く残っており、古墳時代の竪穴住居や土坑、奈良時代や中世期の土坑などが検出されました。

出土した遺物の中には、土師器や須恵器に混じり、わずかに縄文時代後期の深鉢の破片や、この地域では珍しい黒曜石の剥片、古墳時代中期の韓式系土器などがありました。

今後、第3次調査の成果とあわせ、遺跡の特徴を検討していきたいと考えています。

（田中秀和）



遺跡位置図（国土地理院『標本』1:25,000より）



土師器が見つかった土坑(南から)

小野口遺跡第2次発掘調査（安濃町草生）

小野口遺跡は、安濃川右岸の経ヶ峰から派生する標高80m前後の丘陵上に位置する遺跡です。

平成15年に安濃町教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代早期の土坑・ピット、古墳時代後期の横穴式石室をもつ円墳1基が検出されています。

今回の調査も第1次調査と同じく、宗教施設建設事業に伴うもので、平成19年2月～3月に580㎡の発掘調査を実施しました。

調査では、丘陵の緩やかな南斜面に、縄文時代早期の土坑53基が検出されました。

この周辺の丘陵や台地上には、落とし穴が見された西相野遺跡など、小野口遺跡と同じ時期の遺跡があり、縄文人の暮らしぶりを想像させます。

（田中秀和）



遺跡位置図（国土地理院『標本』1:25,000より）



見つかった土坑(東から)

寄贈資料紹介②

一志町小山地内出土遺物

平成19年5月、一志町小山地内から出土した須恵器や瓦、16点を寄贈いただきました。

一志町小山地区は、雲出川の支流である波瀬川右岸に位置し、集落周辺の丘陵一帯には、小山古墳群をはじめ、ヒジリ谷古墳群、中野山古墳群など、数多くの古墳群があります。

須恵器(1~15) これらの須恵器は、6世紀前半～7世紀前半ころのもので、いずれも出土の詳しい経緯はわかっていませんが、おそらく開口した横穴式石室や、開墾などによって消滅した古墳から採集されたものと考えられます。また、これらの中には、小山地区古墳出土遺物として、『一志町史』（一志町 昭和56年刊行）に紹介されたものも含まれています。

軒丸瓦(16) 瓦の出土地は明らかではありませんが、この瓦は単弁八葉蓮華文の軒丸瓦で、7世紀後半のものと考えられます。

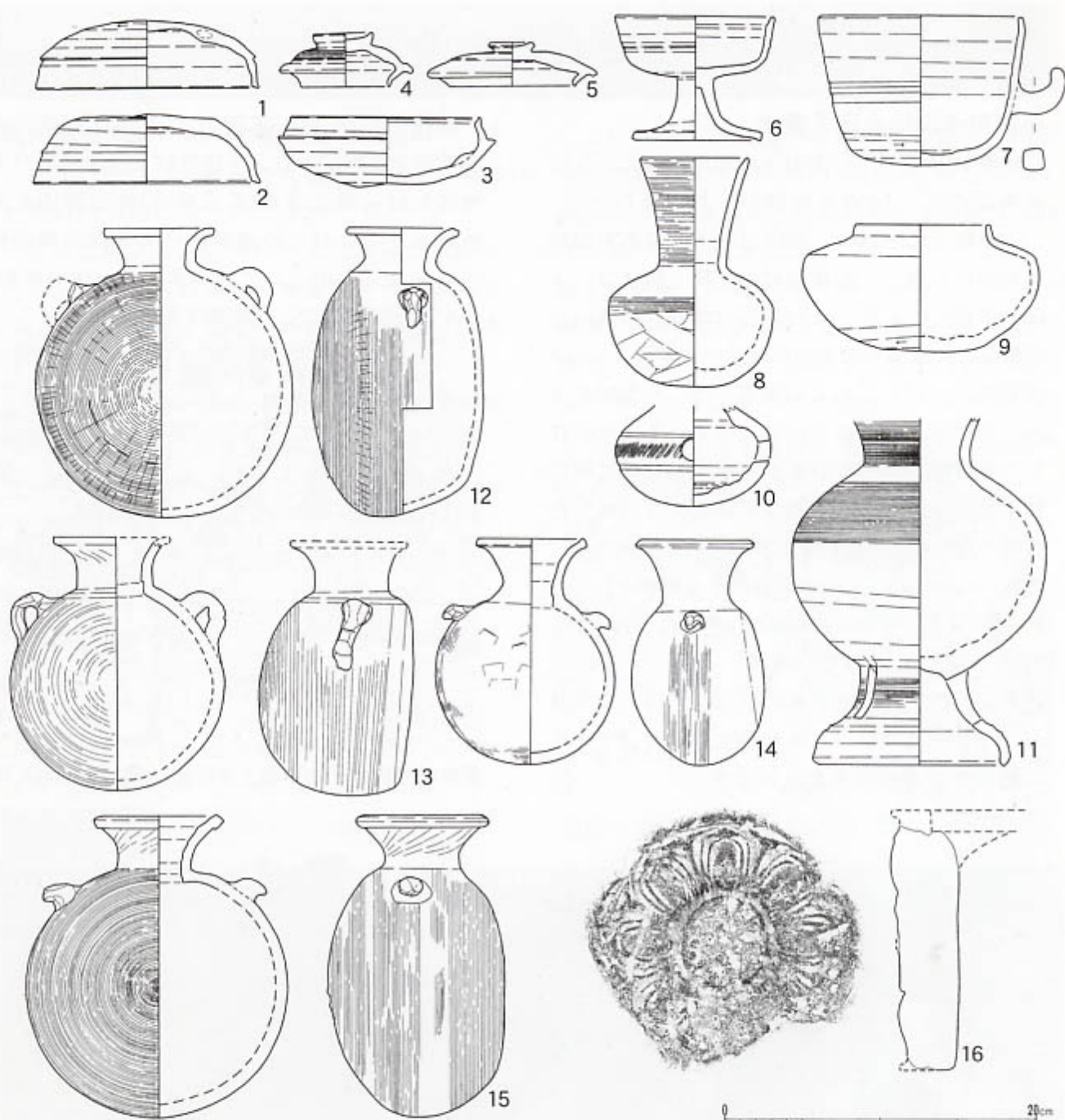
雲出川右岸(旧一志郡内)には、古代寺院が多く建立されており、小山地区に隣接する八太地区には、班光寺跡(八太廃寺)や中野山瓦窯跡があり、これらの遺跡からも単弁八葉蓮華文の軒丸瓦が出土しています。(藤田充子)



遺跡位置図(1:30,000 国土地理院『大仰』1:25,000より)



一志町小山地内出土遺物



一志町小山地内出土遺物実測図（1：4）〔1・2杯蓋、3杯身、4壺蓋、5杯蓋、6高杯、7把手付鉢、8長頸壺、9短頸壺、10碗、11台付壺、12～15提瓶、16軒丸瓦〕

編集後記

合併から2年が経ち、埋蔵文化財調査のおかげで、少しずつ土地勘も養われてきました。

さて、今号から「まいぶん津」が全頁カラーとなりました。これからは、資料の美しい色合いをはじめ、調査現場の臨場感などもお届けしていきたいと思っています。

（編集子）

発行日：平成20年2月29日

編集発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：森田印刷株式会社